

# 朝来市立梁瀬小学校沿革史

## 平成23年度の沿革

平成23年4月1日、山東町内三校（梁瀬小学校・与布土小学校・栗鹿小学校）が統合し、新しい朝来市立梁瀬小学校としてスタートする。

統合に関しては、平成18年頃から、児童数の減少を憂慮し、統合の是非についてアンケートなどを実施し、その実現に向け歩み出した。朝来市教育委員会の「みんなで考えよう！学校再編」の流れもあり、平成20年10月7日に、教育委員会・区長会・三校PTA役員による打合会が開催された。平成21年2月19日に、山東地域小学校等統合準備委員会が招集され、検討を重ね、統合となった。

校訓・校章・校歌・制服等が新しく制定され、卒業証書台帳も、一番からすることとなった。これにより、平成23年3月31日をもって旧三校は、130余年の歴史に幕を閉じた。

## 平成24年度の沿革

平成25年に予定されている大規模校舎改築に伴い、平成24年12月より後庭の移動を行う。グラウンド西側に造営し、樹木、石を移植する。平成25年3月に完成する。また、普通教室にはエアコンが設置された。韓国・柳林初等学校との親善交流が昨年度より行われて続いている。5月に現在の梁瀬小フェスティバル(ミニ運動会)が行われるようになる。

パソコン等の入れ替えがあり、平成26年度兵庫県視聴覚教育研究発表大会の指定を受け、「ICTを活用した授業づくり」の研究を推進することとなる。

## 平成25年度の沿革

平成25年7月19日より大規模校舎改築工事が始まる。平成25年9月2日に改修記念の開校式を予定していたが、台風による大雨警報が出されたので臨時休業となり、翌日の3日に体育館で開校式を行う。全教室にエアコンが設置され、学びの良き環境が整った。

平成26年度の県視聴覚研究発表会に向けて和歌山大学の豊田充崇准教授を講師として招聘し、授業研究に取り組み、授業づくりのうねりが広がった。

## 平成26年度の沿革

平成26年11月18日(火)、兵庫県小学校視聴覚教育研究大会但馬大会を本校で開催する。講師には、和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター准教授 豊田充崇氏を招聘し7回の指導を受け、研究会当日も「ICT活用による学習効果と授業の変容」という演題で講演をしていただいた。

県下各地から245名の参加があり、盛大に研究会を開催することができた。

## 平成27年度の沿革

平成25年度に新たに発足した梁瀬幼稚園・梁瀬小学校後援会が、平成27年度から、一戸あたり400円の協力金を募り、本格的に活動を始めた。12月8日には、後援会主催で、ドクターヘリに乗務されている救命救急医の小林誠人医師を招聘し、「空と陸から救命救急医がやってきた」と題し、3年生から6年生までの児童、職員、保護者、地域住民が講演を聴いた。

また、この年、6年生が厚生労働省ものづくり体験、5年生がABC放送アナウンサー体験、4年生が三ツ矢サイダー環境教育出前授業体験等様々な体験活動を行った。ASAGO音楽祭やバイオリンコンサート等鑑賞した。

## 平成28年度の沿革

平成28年度、兵庫県教育委員会、(公財)兵庫県体育協会の指定の「地域の特色を生かした食育推進事業」を受け、研究に取り組んできた。

平成29年1月27日(金)に研究発表会を開催した。但馬各地から、約70名の参加があった。

研究を進めるにあたって、兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科、非常勤講師、宮田さと子先生に講師をして頂き、助言を受け、研究発表会当日は、「これからの私たちと食生活」という演題で講演をして頂いた。全学年で食育に関する体験活動を多くした。

## 平成29年度の沿革

山東町国際文化交流協会と梁瀬小学校後援会と協賛し、11月10日のオープンスクールにおいて、地元出

身で朝来市観光大使を務められる落語家の笑福亭鶴笑さんを講師に迎え、教育講演会を実施した。豊富な海外経験での話をはじめ、パペット落語など、愉快的話芸によって語られた。出前授業ではユニクロからお越しいただき、授業をしていただいたり、ライツ室内管弦楽団音楽鑑賞会を実施した。

1月から2月にかけて、インフルエンザA型・B型が流行し罹患率が60%を越え、8学級が学級閉鎖を行った。平成31年度の体育館改修に伴い、平成30年度に設計が行われることが決定する。

#### 平成30年度の沿革

新学習指導要領の完全実施に先駆け、本年より3・4年生が年35時間の外国語活動を、5・6年生が年70時間の外国語の授業を実施した。全授業において担任とALTの複数指導で授業を行った。また文部科学省が示す「主体的・対話的で深い学び」を具現化するための授業改善に向け、関西国際大学准教授百瀬和夫氏、兵庫県指導主事 田中健司氏、兵庫教育大学教授 吉田達弘氏 道德教育研究会 行本千智子先生等、多数の講師を招き研修を深めた。道德については但馬地区道德推進実践研究会で本年度の実践研究を紙上で発表した。また、山東町国際文化交流協会と梁瀬小学校後援会が協賛し、11月9日のオープンスクールにおいて、オーストラリア人で兵庫県国際交流協会会員カイ・シムズ氏を講師に迎え、教育講演会を実施した。

#### 令和元年度(平成31年度)の沿革

令和元年5月24日より9月17日にかけて屋内運動場大規模改造工事を行う。併せて運動場東側に新遊具の設置・整地、及び正門門扉の改修を行う。

研究活動では、ユニバーサル化事業重点的取組校として市の指定を受け、関西国際大学教授 中尾繁樹氏の指導の下、研修を深めた。また、12月に山東町国際文化交流協会と梁瀬小学校後援会の協賛としてTVでも活躍中のパッキンマクソンを講師として迎え、「楽しく英語を学ぶコツ」を演題とした。

11月に「原因不明のウイルス性肺炎」が中国で症例が確認されから世界的に流行となり、疾患の原因はコロナウイルスと判明した。日本でも1月に感染者が確認され、3月に安倍首相が全国の学校に臨時休業の要請を行い、3月3日から朝来市内の学校は臨時休業となる。3月19日に予定されていた卒業証書授与式は、臨時休業中ということで卒業生・保護者・教職員・教育委員会のみ出席とする規模縮小の形で実施された。3月23日には、学校は再開されたが、24日の修了式は放送での式となった。修了証は各教室で校長より手渡した。

#### 令和2年度の沿革

令和2年度は新学習指導要領の完全実施、朝来市の小中学校はコミュニティースクールを始動した。本年度は3校が統合され新しく「梁瀬小学校」となり、10周年目を迎えた。また、「公立小・中学校児童生徒への特別支援教育の充実を図るための養護教諭の複数配置に関する研究指定校」となり3年間研究指定を受け、推進することとなり、その間、養護教諭は2名体制となる。

昨年度、流行した新型コロナウイルス感染症が悪化し、4月7日に新学期を迎えたが、その夜に国から緊急事態宣言が発出し、4月8日に規模縮小の形で入学式を行い、4月9日より臨時休業となる。5月6日に臨時休業が延長され、5月31日までとなる。

この間、4月の春のオープンスクール・PTA総会は中止とし、5月に書面決議という形で役員や計画が承認された。

また、5月に予定していた「修学旅行」「自然学校」は10月に延期、家庭訪問は中止とした。

感染が治まりかけたことを受け、5月22日に関西圏の緊急事態宣言が解除された。5月21日から学校再開に向けての準備段階として登校可能日が設定され、登校可能日は分散登校となり、各クラス半分ずつに分かれて登校した。そして、6月1日に学校は再開された。6月1日からの学校再開は、最初の一週間は一斉登校としたが、午前中授業で給食なしとした。また、人数の多いクラスは分室学習とした。6月に予定していた夏のオープンスクールやプール水泳は中止とした。

6月8日より通常の形での再開となる。しかし、引き続き感染予防対策は行った。授業時間確保のため、行事等は削減した。

夏季休業日は9日間に短縮され、8月31日までが一学期となった。二学期は9月1日から開始した。延期されていた「自然学校」は宿泊を伴わない三日間で実施となり、「修学旅行」は宿泊を伴わない日帰りで徳島・淡路島方面での実施となった。また、「秋季運動会」は無観客での開催となり、10月29日の平日に午前中で規模縮小を図り、実施した。

11月のオープンスクールは、人権発表会やPTA教育講演会は、中止とし、授業参観のみ三日間で地域別に分散型で実施した。11月27日には、朝来市外国語教育講師招聘研究会を関西大学の竹内理教授を講師として招き、開催した。12月に開催予定だった「創立10周年記念式典」はコロナ禍のため中止とした。

10周年の記念事業は、記念誌と記念品を作成し、記念品は全戸配布し、記念品は児童全家庭と関係者等に配布した。

冬季休業日は12月25日から令和3年1月6日までとし、予定通りの実施となった。三学期は予定通り1月7日より開始した。しかし、年末年始にかけて、全国的にコロナ感染が拡大し、1月に兵庫県を含む11の都府県に緊急事態宣言が発出された。2月7日には、解除されず延長することとなり、2月のオープンスクールやPTA資源回収は中止とした。2月28日に緊急事態宣言は解除されたが、卒業証書授与式は、感染拡大防止の観点から、2月23日に卒業生・保護者・教職員・教育委員会のみでの出席とする規模縮小の形で実施した。3月24日の修了式はコロナ予防対策をとり、体育館で行った。

#### 令和3年度の沿革

令和3年度、コロナ禍は未だ終息せず、4月8日の入学式は昨年度と同様に感染防止の観点から新入生、保護者、関係教職員、教育委員会、PTA会長のみの出席で行った。2年から6年生は、式には参加せず、教室で授業を行った。

4月にコロナ感染症が再度拡大の傾向になり、兵庫県に三度目の緊急事態宣言が4月25日に発出した。昨年に続き、春のオープンスクールの内容はすべて中止とした。また、自然学校・修学旅行は2学期に延期とした。緊急事態宣言は、5月11日までであったが、収束の傾向には進まず、31日までとなった。しかし、緊急事態宣言が再延長され、6月20日までとなり、夏のオープンスクールも中止とした。また、プール水泳やPTA地区懇談会等も中止とした。

ふるさと教育の充実を図るため、学校運営協議会で検討した内容を具現化し、旧粟鹿小学校の農園を借り、1年・2年・3年・4年・6年が、農業体験や栽培活動を行った。

7月から8月にかけて、屋内運動場(体育館)空調設備の設置工事が行われた。また、夏休みに新型コロナの感染が急拡大し、8月20日から9月12日までの期間で兵庫県に4回目の緊急事態宣言が発出された。しかし、収束せずさらに9月30日まで延長された。なお、秋季大運動会は、緊急事態宣言下ということで、9月16日の平日に規模縮小し、午前中無観客で実施した。また、5月から9月に延期した5年生の自然学校は、9月24日と9月27日～30日まで泊なし5日間で実施した。

10月1日全ての都道府県で緊急事態宣言が解除された。しかし、第六派を懸念して、県では、独自の対応策を打ち出し、コロナへの予防対策は続く。6年生の修学旅行は、緊急事態宣言の解除により、コロナ対策を講じ、10月27日～28日の一泊二日で京都・奈良に行った。

11月5日の秋のオープンスクールは、保護者一名に限定し、参観日の形で地域を二グループに分け、2校時と4校時で実施した。教育講演会は、児童だけとし、東京パラリンピック競泳日本代表の山田拓朗選手にお越しいただき、インタビュー形式でお話を伺った。二学期終業式と三学期始業式は体育館で行った。

三学期、1月にスキー教室は五・六年生でコロナ対策を講じて、実施した。その後、新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が感染拡大し、市内でも学年・学校閉鎖の学校が出る。また、1月27日～3月21日まで県内全域に「まん延防止等重点措置」が適用されたことを受け、2月のオープンスクールは中止、三・四年生の社会見学も中止、PTA資源回収も中止した。学年単位の行事等も期間内は延期することとした。感染の拡大で3月15日～19日まで六年二組を学級閉鎖とした。

卒業式は、六年二組の学級閉鎖により、五年生の参加を見送り、六年生とその保護者に参加者を限定し、3月23日に挙行了。なお、五年生以下は代表一名のみ参加させ「送ることば」を述べた。他は家庭学習とした。24日は、予定通り修了式は体育館で行った。